

2011.07.26

ご支援をいただいたみなさま

お父さんたちのネットワーク世話人  
石垣政裕

## 支援物資のご報告No.11

- 石巻リヤカー支援 -

### リヤカー

昔よく、おじちゃんもおばちゃんも、おじいさんもおばあさんも引いていました。子どもを乗せたり、引越もこれでやりました。自転車の後ろに付ければ機動性が増します。リヤカーはまさに、私たちの軽トラックだったのです。夏にはいろいろな物売りの声とともに麦わら帽子のおじさんがリヤカーとともにやってきました。リヤカーは決して応援団の太鼓運びだけではなかったのです。

3年ほど前、中国の西安の中心街で、電動バイクの様なものにリヤカーをくっつけ、積んでいた巨大なバッテリーで走っているのを見かけました。いつの時代にもどこでも活躍できるのがリヤカーです。

小さい頃、学校では用務員さんがリヤカーにいろいろな物を積んで校庭で作業をしていました。夏も冬も、子どもたちの教育の環境を整えるためには欠かせない道具なのです。今回の震災で津波に襲われ、避難した学校では、ほとんどの用具が使用できないようになってしまいました。工具支援の折に、リヤカー3台の要請があり、市内を探し回ったのですが、活躍できそうなリヤカーは見つけれませんでした。

いったんはあきらめたのですが、今回 国際NPO法人「難民を助ける会」の支援により10台のリヤカーを支援していただけることになりました。タイヤなど被災地でも活躍できる仕様になっていると贈呈式の折に柳瀬房子会長からお聞きました。タイヤのみならず、内側の枠も厚い合板でしっかりと作っていただき、後ろの枠が、すっと外せるスライド式になっているのも実にバリバリ使っていた昔の仕様になっていました。

リヤカー10台もどうやって運ぶのか、それを考えただけでも頭を抱えそうですが、三重県桑名市にある「高野興業株式会社」様が運賃無償で東京の株式会社ムラマツ車両を經由して10台のリヤカーを石巻市まで届けてくださったということです。本支援に当たってはリヤカーの保管場所なども含めて、宮城県ライフル射撃協会からもご支援をいただきました。感謝申し上げます。

以下は稲井オヤジの会の千葉さんの報告です。

---

## 高野興業(株)と稲井オヤジの会(千葉政徳)リヤカー配達報告

### 配達順序

石巻市立稲井小学校[敷地内に渡波中学校仮設校舎建設中]  
《渡波中学校と共同使用》

石巻市立稲井中学校[敷地内に渡波小学校仮設校舎建設中]  
《渡波小学校と共同使用》

石巻市立湊第二小学校[開北小学校内に間借り中 & 仮設校舎建設中]

石巻市立大川小学校[飯野川第一小学校内に間借り中]  
《飯野川第一小学校と共同使用》

石巻市立釜小学校

東松島市立矢本第二中学校

東松島市立大曲小学校



高野興業からのトラックとリヤカー

午前9:50分頃に高野興業(株)が宮城県ライフル射撃場へ到着しました。8トントラックに10台のリヤカーが立ってるのは爽快です。「本当に10台来たよ〜...」と心震わせました。

事務室にてしばらく自己紹介と配布学校の順序などのミーティングをし、本日届けるリヤカー7台を車に残して3台は射撃場預か

り(仮置き場)として、まずは直ぐ近くの稲井小・中学校へ。

この日、石巻管内では校長先生・教頭先生は共に出張で教務主任の先生と用務員の方が出迎えに来て頂きました。



稲井小学校で

稲井地区を後にした私たちは一路、旧石巻市内の開北小学校へ。ここには湊第二小学校が間借りをして授業をしています。体育館は避難所となっており、この中には(8/2現在も湊第二小学校へ子供を通わせる親や子どもたちも避難しているのです。)

湊第二小学校(開北小学校内)を後にした私たちは平成17年(2005年)4月1日に石巻市と合併し、新石巻市となった旧・河北町(かほくちょう)にある飯野川第一小学校内に間借り中の大川小学校へと向かったのですが、8トントラックでは大きすぎて学校へ近づく事が出来ないために路駐して約200m程の距離をリヤカーを引いて届けに向かいました。新品だからかもしれませんが、走行が軽い、軽やかに引くことができるリヤカーだと実感し、更に楽しくなりました。出迎えてくれたのは両校の教務主任のお二人と用務員(写真中央)さん



石巻市立釜小学校で

で、手渡した後、3人が交代でリヤカーを引いて倉庫へ向かっていかれました。

また旧石巻市内へ向かいます。次は釜小学校へ、事務の方が出迎えてこられて、ここにはリヤカーがありますが、津波でさらわれ、200m以上も流され云々とお話されました。変わり果てた姿のリヤカーを回収してきたのだそうです。なんとか直してみようと試みたのですが...とも。釜小学校の事

務の方も笑顔がこぼれます。用務員もまた、仕事が捗ると言っておられました。

次は東松島市へ参ります。東松島市立矢本第二中学校へリヤカーを届けて参りました。



矢本第二中学校へ

ここは予めからリヤカーを要請していた学校で、国際NPO法人「難民を助ける会」からの支援が無ければ要請を断らざるを得なかった学校です。この日、出迎えてくれたのは校長先生でした。「やはり私の時代はリヤカーで...」とお話を伺いました。2学期が始まったら生徒たちと一緒に使うという事でした。

東松島市2校目、そして本日最後の学校、大曲小学校へ向かいます。ここから5分も車を走らせれば着く距離です。ここも中学校同様にリヤカーが必要だった学校です。どんな使い方をしてくださるのが楽しみです。

この後、高野興業(株)の方と石巻市の沿岸(被災地区)を見て回りました。こういう言い方をすると可笑しいと思われませんが『被災地おすすめの場所』があります。大曲小学校から直ぐの場所で、沿岸に工業地帯のある石巻合板(株)やセイホク、日本製紙が並ぶ場所があります。中村サイクルセンターもあった場所が直ぐ近くなのです。高野興業(株)さんたちは声もでません。釜石市の被災地の写真を見せて頂いたのですが、石巻はその比ではありません。天国と地獄が分かれている地域。それがはっきりとわかります。

## 大曲小学校での贈呈式

8月4日(木)大曲小学校でリヤカーの贈呈式が行われました。



国際NPO法人「難民を助ける会」の会長柳瀬房子さんはじめ、この支援のために援助をしてくださった方々が臨席されました。

教頭先生から震災当日やその後のお話を伺いました。すでにきれいに後片づけされた学校、校庭の様子からは伺うことのできない大変な出来事であったことを再認識しました。

お忙しいところありがとうございました。

お父さんたちのネットワークからは3名出席しました。